第３２号

ＣＳだより　はいちゅう

令和５年１１月発行

地元事業所からの声をお届けします

９月下旬に２年生が職場体験学習を実施しました。地元の事業所様に御協力をいただき、働く歓びや厳しさを感じ取り、職業観を養うと共に「こころざし」を立てる絶好の機会となりました。

事業所様からは実習の様子をアンケート形式で伺いました。その多くは、中学生には、**大きく成長して欲しい**と期待と温かな励ましの声をいただきました。

会計事務所

食品販売

茶工場

生花店

ガソリンスタンド

消防署

榛中生の良い表れがあれば教えてください

- 一度教えたことはきちんとできていました。自転車や靴の置き方もマナーを守り丁寧でした。
- 受け答えがしっかりできており勤務態度も良かったです。最後に仕事の感想を聞いたときに、自分の意見をしっかり述べていたところに感心をしました。
- 挨拶、言葉遣いなど、とてもきちんとしていて大変好感がもてました。荷物を置いて挨拶するなど、いずれ身につけなければならないことが、既に身についていることが素晴らしいと思いました。
- 自分たちで何をするべきか考えて行動できる生徒が多くいました。
- 初めての経験で、ドキドキしながらも積極的に頑張ってくれました。最後のレジ接客も、もう一度やりたいと意欲的で将来が楽しみです。

榛中生の課題や今後伸ばしてほしいこと

・ご両親や周りの人たちの助言に耳を傾け、今のまま素直にそして元気に育ってほしい。
・反応がわかりにくいとこちらも不安になるので、相づちではなく返事で返せるようにしたいですね。
・一人一人が考えて行動できると更に良いかと思います。集団の中で自分の考えや意見を主張しても良いと思います。
・保育の仕事は言葉で伝えること、表情で伝えることが大切なので「相手に伝える」「返事をする」「挨拶を大きな声」等できるといいですね。色々なことに興味関心をもって行くといいですね。

事業所様の感想

・生徒にとっても緊張の毎日だったと思います。事業所側も生徒さんからエネルギーをもらい、背筋が伸びた三日間になりました。
・生徒を前に教えることは、初心に返り仕事を見直すことにもなります。こちらこそありがとうございました。
・保護者の方が子どもさんの様子を見に来てくれました。御迷惑かけて申し訳ないとお礼を述べて帰られました。事業所にとりまして、思いがけない御家庭からの声が一番うれしいですね。

こころざし講話会

卒業生が語る

１１月２８日（火）「 M.みかん」代表　 板倉純子さんのお話を全校で聴講しました。板倉さんは榛原中出身で大学院卒業後に外交官という仕事に従事しました。社会に出てからは，アフリカ諸国（特に南スーダン）の人道支援にあたり、国際機関と日本政府をつないだり、海外と日本企業をつないだりする役割を担っていました。

その後、家業である「いたくら農園」を家族と一緒に営みながら、自身の会社 「M.みかん」を立ち上げ、農園の作物を使った ドライフルーツ・みかんジュース・ケーキなどを商品化し、自身が「やりたい」と思ったことを次々実現しています。

榛原中生へのメッセージとして、南スーダンのゼロからの国づくりに携わった経験から**「仕事のあることの充実感」・「自分にできることは何か」・「挑戦することを恐れない」**など【榛中は未来の私の出発点！】となる講話でした。

講話の後、会社での利益の一部を社会貢献（人道支援）に充てたいと、これからの抱負を熱く語ってくれました。